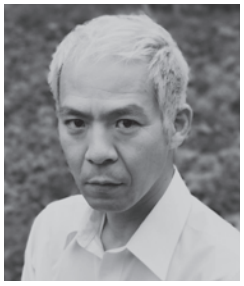
「地方における防犯」



吉田防犯　代表
防犯設備士　第 12-23727 号　**吉田　利成**

岩手県は平和だ。

犯罪認知件数は微々たる数値ではあるが減少傾向にあるし、住民に侵入窃盗について問いかけても「うちに盗まれるようなものは無いよ。」という答えが返ってくる。
だから外出時に施錠もしないし、自然の風を感じるために窓は開けっぱなしである。

このじつにのんびりとした雰囲気は、地方都市（ありていに言うと田舎）の良さである。

そんな故郷・岩手という田舎に私が都市部から戻ってきたのが4年前。
地元・岩手で「防犯カメラの専門店」をやると中小企業診断士に話したところ「ニーズが無い」と一笑されたのは言うまでもない。

しかし私には一つの疑念があったのである。

IT革命が謳われたのち、誰しもがより多くの情報を得られるようになり、対岸の火事と思われた事件や事故、犯罪手口までもが動画配信されるような時代において、現時点のニーズに基づいた意見に従うことが正しいことなのであろうか?

もしこの時、「ニーズがないから商売にはならない。」と判断していたとしたら将来的に自分の故郷の安心・安全に貢献できる機会を逃していたと思うのである。

そこから私の岩手における「防犯カメラの専門店」の「活動」が始まったのである。

あくまで「仕事」と書かず「活動」と書いた理由は後述する。

＜活動・1＞
地域の人に犯罪と防犯について聞く

●確かに県警発表の「犯罪白書」における犯罪認知件数は減少傾向にあるが、地域住民の体感と比例しているわけではなく、「ストーカーまがいのことをされた」「声掛けの事案はよく耳にする」「車両へのイタズラ行為の被害にあった」など、警察に被害届を出すに至らないまでも相当数の事案があることが分かる。
　さらには「予防・防犯をしようにも公的機関や警備会社以外に気軽に相談できるところを知らない」ことが伺えた。

＜活動・2＞
防犯カメラについて聞く

●防犯カメラに関しては、ニュース報道やテレビ番組での情報で知っている。
　しかし、地方では取扱い専門店がなく都市部の業者により販売・設置費用が割高となっていることもあり「高価なシステム」「ぼったくられた」などという悪いイメージが強く、システム導入に至らないケースが多い。

この二つの活動で見えてくるのは「防犯や防犯設備に関しての情報」が都市部と比べて圧倒的に低いことであった。
また、これも住んでみて分かったことだが、地方都市ではまだインターネット環境が十分でないところもあり、ローカルネットでの情報が判断基準となることが多い。
そして明らかに高齢化がすすんでおり、情報取得が困難と思われる状況もある。

ここまでくると自ずとやるべきことも具体的になってくる。
先にも書いたが「防犯や防犯設備に関しての情報の提供」に他ならない。
そのためにも情報提供者である私たちは、常に防犯・防犯設備に関しての知識・技術を常に研鑽しなければならないと思うのである。

さてここで、私が「仕事」と言わず「活動」と表した理由だが…。

「仕事＝商売」という概念はよく理解している。
そして岩手という地方都市において現実問題として「ニーズが無いから商売にならない」というのは事実である。

そこで、無いニーズを掘り起こすためにも、まずは犯罪認知件数の低さからくる「防犯意識の低さ」を改善し、「防犯のために必要な設備」をより多く知ってもらう「活動」が必要だと考えるからだ。

岩手県防犯設備協会は発足はしたものの、2015年から約4年あまり休会となっていた。
お分かりだと思うが、本文中に活動を記録した写真の差し込みがないのもそのためである。

寝た子を起こす覚悟で再始動を呼びかけ今に至るが、盤石には程遠く、道のりは険しい。
まして地方都市という田舎では尚更のことだ。

だからこそ「活動」…活かし動いていく価値はあり、やがて「仕事」にしていかなければと思うのである。

今後とも温かくも厳しく見守っていただければ幸いです。